



- 2014-2015 R I 会長：ゲイリー・C. K. ホアン
- R I 第 2570 地区ガバナー：坂本 元彦
- 会長：加藤 国夫 幹事：滝沢 文夫
- 例会日：木曜日 12：30～13：30
- 例会場：丸広百貨店入間店 6 F パンケットホール
Tel. 04-2963-1111

- 会報委員長：石川 嘉彦 ■ 当番：齋藤 金作
- 事務所：〒358-0023
入間市扇台 3-3-7 ハイッ斎竹 101 号
Tel. 04-2964-1700 Fax. 04-2965-5788
Email: iruma-rc@jupiter.plala.or.jp

第 12 号 2832 回例会 2014 年 9 月 25 日 (木)

● 会長の時間

加藤国夫会長

今日の会長の時間は 7 月 26 日に行われた、夏休み西武地区入間川(河川敷)を中心とした清掃作業(クリーン大作戦)の様子を入間ケーブルテレビが収録し、テレビ放映された映像をご覧ください。主催団体は入間市野田・新光地区青少年健全育成推進会、入間市西部中学校区健全育成推進会・後援入間ロータリークラブ。参加者は児童生徒、参加機関者合わせて 250 名以上で実施され、入間 RC から送られたリヤカー 4 台を利用して、この夏一番の暑さの中、空き缶やゴミ屑拾いに汗をかきました。この折り畳みリヤカーは会員皆様の尊い浄財「スマイルボックス」から送られた機材です。

2014～15 年度ロータリー財団補助金申請事業「発達障害児支援事業」である入間市教育委員会研究所の教育事業、発達障害児教育教材の贈呈式に社会奉仕委員会・広報委員会。財団委員会の委員で本日例会後行って参ります。この事業は入間市教育委員会が数年前から進めている運動で、すでに効果が上がっている様です。しかしこのような教育にはまだ教材不足があるとの事です。支援活動を通して地域交流会発展にも繋がり、新世代の為の支援に事業の一環として行われる極めて質の高い奉仕活動です。



25 日例会後に教育長村野志朗様、教育委員河村佳樹様に「こども未来室」の教材を寄贈し、感謝状をいただきました。

● 幹事報告

滝沢文夫幹事

1. 10 月の例会は第 1 例会だけが定例会場になります。第 2 例会から第 5 例会までは移動例会や夜間例会になります。その都度ご案内いたしますが、お間違えない様お願いします。
2. 10 月のロータリーレートは 1 ドル=106 円になります。9 月迄は 1 ドル=102 円ですので、各種寄付金をドル建てで行うのはお早目に!
3. 本日例会終了後に入間市教育研究所にて入間 RC より教材寄贈による感謝状贈呈式。加藤会長、幹事、社会奉仕、広報、R 財団等の会員 9 名で出席。



● 委員長報告

親睦活動委員会

大野賢次委員長

10 月は移動例会が多く立て込んでおりますが宜しくお願いいたします。9/29 に家庭集会を開きますので関係者の出席をお願いいたします。

ロータリー財団委員会

後藤賢治委員長

9/6 にロータリー財団部門セミナーが開催され参加して来ました。最初に坂本ガバナーと野中 P G から皆様に寄付のお願いがありました。ロータリー財団の一番の目的は 2018 年までにポリオ撲滅をすることです。それには現在 5.4 億ドル資金が不足しており、1 クラブ当り 1,500 ドル用途指定寄付をお願い致しますと言う事です。ポリオの無い世界を実現する為にお力をおかけ下さい。又、今年度の地区寄付金目標、会員 1 人 200 ドルもお願いいたします。

地区補助金申請をされたクラブは 52 クラブ中 16 クラブでした。2015 年 5 月 31 日迄にプログラムを終了し、報告書を提出し、6 月中に地区はロータリー財団へ最終報告書を一括で提出します。ひとつでも未完のクラブがあると、次年度の地区保補助金の利用に支障が発生する事をご理解願います。

万燈まつり実行委員会 粕谷康彦委員長

今晚、準備委員会を行ないます。尚、駐車場が少ないため車はご遠慮の程をお願いします。

<出席報告> 田中快枝委員長

会員数	出席数	出席率	前回修正率
39名	24名	64.9%	76.9%

事前欠席連絡 3名

<ニコニコBOX> 忽滑谷明SAA

加藤国夫君～ビデオが何とかできホットしています。忽滑谷明君～来月の米山月間にあたり卓話をさせていただきます。関根靖郎君～早退いたします。

本日¥4,000

累計¥249,500

◆回覧、配布物

- ①中井眞一郎PGから中井年度収支報告時期・地区決議会等のメール連絡
- ②ポール・ハリス・ソサエティ入会案内
- ③地区大会2日目本会議及び記念講演欠表
- ④ロータリーカード入会申込書
- ⑤米山記念奨学事業・豆辞典2014～15年度版
- ⑥親睦旅行・万燈まつり・万燈まつり慰労会・入間南RC合同夜間例会 各欠表
- ⑦「ガザを救う対話を」新聞切り取り
- ⑧加藤会長より「論語」解説
- ⑨週報11号



■ ■ ■ 会員卓話 ■ ■ ■

「米山月間にあたり」

地区米山記念奨学部門忽滑谷明委員長



来月の米山月間にあたり卓話の機会を設けていただき誠にありがとうございます。当地区の米山記念奨学部門委員長として米山記念奨学事業の理解の促進、寄付の増進、奨学生、学友との交流促進と広報等、お願い又PRをさせていただきます。

ロータリー米山記念奨学事業は、1952年に東京RCが日本のロータリーの創始者、故・米山梅吉翁の偉業を記念し、後生に残るような有益な事業を立ち上げたいと立案し、5年後の1957年には日本の全クラブの共同事業となりました。国際ロータリーに認められた60年以上も続く多地区合同活動であり、日本のロータリアンが作り育てた歴史と実績に基づいた世界に誇れる事業であります。

「最近の留学生はあまりお金に困ってなさそう」「反日国からの留学生にはお金を出したくない」「むしろ日本の学生にお金を出した方が・・・」「自国と日本との懸け橋って聞こえはいいけど実際は？」というお話をお聞きする事があります。しかし、この事業の目的は、国際平和と国際理解の推進であり、日本で学ぶ留学生を支援する事により、日本人と日本文化を正しく理解し、将来国際社会で活躍する人材を育てることです。『将来の日本の生きる道は平和しかない。その平和日本を世界に理解させるためには、アジアの国々から一人でも多くの留学生を日本に迎え入れて、平和日本を感じてもらわなければならない。それこそ、日本のロータリーに最もふさわしい国際奉仕事業ではないだろうか』と、そこには、二度と戦争の悲劇を繰り返さないために、国際親善と世界平和に寄与したい・・・という当時のロータリアンたちの強い熱い願いがあったのです。その願いを我々は忘れてはならないのです。

これまでに支援した奨学生は18,000人あまり、出身国は120カ国以上に達しており、民間では国内最大の奨学事業です。特に、世話クラブ及びカウンセラー制度は、ロータリアンとの交流により、金銭的な支援だけではとても得ることの出来ない感動を与えてくれる独特の事業です。

地区の奨学生の受け入れ人数は、前年度のその地区の留学生数、個人の平均寄付額、地区の寄付総額によって決められます。この寄付額を重視した算出方法は、寄付意欲が強く、奨学生をより多く採用したいと望む地区の要望に応えられるよう採用されております。ぜひとも、私達の地区もお隣2770地区に追いつきますよう引き続きご支援をお願いいたしたいと存じます。

近年皆様にご指摘いただくのは、中国、韓国の奨学生の受入れ人数が他の国に比べて多いのではないかというご指摘です。実は、現在日本に約14万人居る留学生の約6割が中国籍で、次いで韓国、台湾が続く、漢字圏の地域だけで全体の8割を占めています。多様な国、地域から採用されることが理想的ですが、実際には、日本を留学先に選ぶ学生の国籍数が増えなければ難しいのが現状です。

米山記念奨学事業は、経済的に困っている学生への救済でも、特別な学業研究の奨励でもありません。母国と日本との懸け橋となるような人材を育てる、いわば教育事業です。その教育を受け持つのが世話クラブでありカウンセラーの皆さんです。クラブでの活動を奨学生も一緒になって体験し、日本の素晴らしさ、日本人の気遣い、思いやりを肌で感じて、母国、特に中国、韓国、台湾へ世界平和の願いを持ち帰ってもらいたいと望んでおります。これからも、引き続き当事業のご理解ご協力をお願い申し上げます。

会報・雑誌委員会(石川・森田・荒井・関谷)